

事業報告書 (平成 30 年度)

事業名 海底探検隊2018

団体名 特定非営利活動法人グリーンパートナーおかやま 担当者名 藤原瑠美子

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

【日時】平成30年10月28日（日）8時30分～16時

【場所】香川県小豆郡土庄町（瀬戸内海海上）、四海漁港

【参加者】一般参加者、行政関係者、ライオンズクラブ関係者など

【人数】参加人数48名、スタッフ9名

【内容】

瀬戸内海に面した香川県小豆郡土庄町にて「海底ごみ回収底引き網体験学習」を実施しました。早朝新岡山港に集合し、四海漁港へ遊覧船で向かい、到着後漁場へ出発。

底引き漁船が網を引き揚げる様子を、参加者は遊覧船から見学しました。魚とともにごみが回収される様子を見て、参加者からは驚きの声が上がっていました。行き帰りの船中では、漁師さんや環境省の担当者から「海ごみ」の現状などについて話を聞きました。

回収後、四海漁港において参加者全員でごみの分別調査をしました。当日回収したごみや溜めていたごみを、空き缶、ビニール袋、プラスチックなどに分別しましたが、明らかに生活環境から出たと思われるごみが多いことを全員で確認しました。

その後小江自治会館で開会式を行った後、グループに分かれワークショップを実施しました。ワークショップでは、どんなごみが流れ海にどのような影響を与えるのか、どんな瀬戸内海になってほしいかなど、話し合いをしました。

いずれも幅広い世代の人が楽しんで参加できる内容で、海ごみをなくすことの重要性を学ぶことが出来ました。

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

「海ごみ」特に海底堆積ごみの最大の問題は、それが市民の日常からは見えないことにあるため、解決すべき問題と認識されないことにありました。

そこで、漁業者の皆さんが網にごみがかかって困っていることを実際に体験してもらうとともに、ごみが自分たちの日常生活から出ていることを知ってもらうことで、多くの参加者に自分たちも当事者であることを認識してもらえようになりました。このことにより、そのままでは行き場のなかった「海ごみ」が、回収や発生抑制の対象となり、環境負荷の低減につながる取り組みへと繋がっています。

3. 取組の成果 (参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など)

実際にごみ在海から上がってくる様子を見て、参加者は大変驚くとともに、自らごみの分別を行うことで、生活環境から発生したごみが多いことを実感していました。

また、ワークショップなど参加型の取り組みを通じて、楽しみながら自然の大切さを学んでいただけたと思います。

今回も参加者の年齢や職業は多様で、従来から支援いただいている行政関係者をはじめとする様々な階層の参加者が、共通の課題に向き合うことで交流ができたことは、最大の成果です。

さらに、今回は香川県の行政担当者をはじめ、高松栗林ライオンズクラブ関係者にもご参加いただき、瀬戸内海に面した地域同士での交流も図れたことは、今後の問題解決の広がりが期待できるものです。

瀬戸内海 of 自然環境、ごみ問題などの課題を共有でき、ESD活動としての取組みが出来たと考えます。

4. 今後の課題と展望

【課題】

持続可能な活動とするためには、漁業者も含めすべてボランティアとするには限度があります。補助金・助成金に依存しない財政基盤の確立が急がれます。

そのためには、この問題にかかる行政の役割や位置づけを明確にすることが必要だと考えます。

さらには、流域住民や環境問題に取り組んでいる団体を含め、この問題の重要性に関する認識がまだ十分とは言えず、日常生活との関連も含め、持続的な広報啓発を行っていかねばなりません。

【展望】

瀬戸内海は我々の生活や文化と密接にかかわりがあります。「海ごみ」問題は、単に海にごみが溜まるという一面的なとらえ方だけではなく、自然環境を保全は最終的には人間の生活環境すなわち生命を守ることにつながることを認識してもらい、今後の具体的な行動へつなげるきっかけにしたいと思います。

また、海の問題にとどまらず、途中の河川の環境や日常生活におけるごみのポイ捨て問題、さらには河川の源流にある山林の保全の問題にいたるまで、すべてが関連し繋がりを持つ問題であることを、体験を通じて認識してもらえよう取り組みを検討していきたいと思ひます。

活動状況写真



遊覧船で船上から観覧



底曳網船による回収の様子



ごみ分別・計量作業



回収したごみの前で



ごみ分別・計量作業



ごみ分別・計量作業



藤原理事長あいさつ



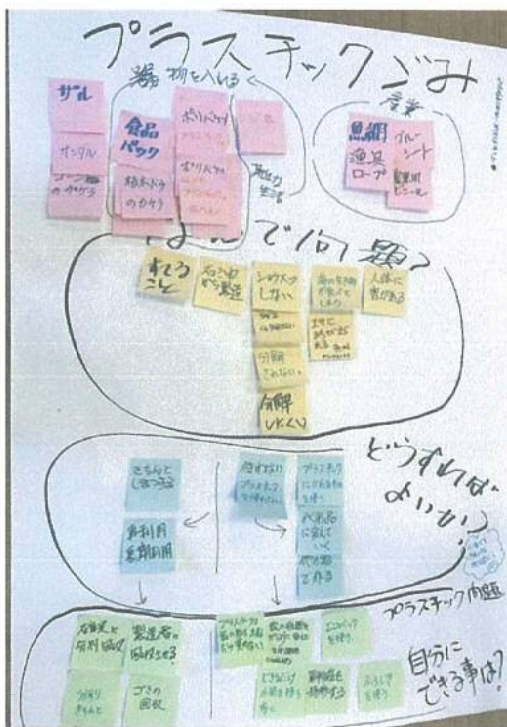
来賓あいさつ



ワークショップの様子



ワークショップの様子



グループで意見を出し合う



グループ発表